訓示令和2年

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆様方におかれましては、ご壮健にて令和2年という輝かしい年を家族揃ってお迎えになられたこととお慶び申し上げます。
今年の年末年始は 9 日間と長く、職員の皆さんには家族団らんなどリフレッシュすることができたのではないかと思います。
さて、昨年はそれぞれの立場で、町政進展、住民福祉の増進のために職務に精励いただき感謝申し上げます。お陰様で着実に三芳町が前進した 1 年でありました。

また、このあと、勤続 30 年の職員の皆様を表彰いたします。皆様には、長きにわたり町のために貢献していただきました。深く感謝申し上げます。

毎年、その年を振り返り 10 大ニュースを発表させていただいています。話題性のあるものから順位付けしていますので、順不動ということでご理解ください。
まずはオランダ柔道連盟の事前キャンプに関する覚書を調印しました。そして、聖火リレーが三芳町を通過することが決定しました。また、新潟県の津南町、埼玉県の上里町と災害時の相互応援協定を締結しました。農業遺産の関係では、中国の宣化で都市農業の共同宣言を行いました。
そのほか、SDGsのまちづくり宣言、藤久保地域拠点施設基本計画の着手、令和の森公園構想着手、オランダへの中学生海外派遣の実施、ホストタウンフレーム切手の販売、ロゴマークなどの町制施行 50 周年に向けた発表などがありました。
これらの成果も皆さんのお陰で実現することができました。改めて感謝します。

昨年は、何よりも 5 月に新天皇陛下が即位なされ平成から令和に御代が代わりました。
そして、新しい年が明けました。今年は東京オリンピック・パラリンピック、町政施行50周年の年。節目の年を迎えます。
節というのは大変重要です。竹は、中が空洞であっても空高く伸びることができるのは、節があるからです。節は、これまでの成長させていただいたことへの感謝であり、努力の積み重ねであり、一方で未来への希望や夢です。
草木は、節から芽が出て、花が咲きます。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックの年、町政施行50周年の年。この三芳町を創り継承してきてくれた先人たちに感謝し、未来へ向けて新たな芽を出し、花を咲かせる時です。
しかし、2020 年という1年を一過性で終わりにしてはいけません。第 5 次総合計画後期計画、都市計画マスタープランなどもスタートします。しっかりとした未来からのフィルターにかけて事業を実施しなくてはいけません。未来へのレガシーを遺していかなくてはいけません。
また、オリンピック・パラリンピック、50 周年も担当課だけの事業ではありません。職員の皆さん一人ひとりが「私のオリンピック」「私の 50 周年」と思えるように参画し、皆さんの心の中にレガシーを遺してほしいと思います。

さて、それでは、今年 1 年間どのような気持ちで職務を遂行したらいいのでしょうか
その答えは、昨年のラグビーワールドカップで躍進した日本チームを支えた言葉。外国出身者が多く、様々な言語や文化が集まる選手を「1 つ」にした言葉、「ワンチーム」です。
では、「ワンチーム」を作り、成果を残すには何が大事でしょうか。
3 つの言葉と＋一つのキーワードがあると考えます。
それは、「使命」「信頼」「協調」、そして「成長」です。
「使命」
まず、一人ひとりが、今与えられた仕事に対して使命感、天命と言ってもいいかもしれません。その使命感を持つこと。その一人ひとりの使命は、町の発展、住民の幸せという大きな目標につながっています。使命には苦労や困難も伴いますが、それを乗り越え、皆の使命が一つに集約された時に目標は達成されます。
次に、「信頼」
お互いに尊重し合うということ。職員同士、上司と部下、職員と住民、職員と関係団体、多くの皆さんが、お互いの立場を認め合い、尊重することです。

論語の中に、こんな一節があります。
「君臣を使ふに禮を以てし、臣君に事ふるに忠を以てす」
これは「君主は臣下に礼儀正しく接し、臣下は君主に対して誠心誠意仕えなければならないという意味です。上下関係に必要なのは、「礼」と「忠」です。「礼」を尽くし、「忠」、誠実な態度で相手に接するということです。職場における信頼関係は、仕事を進めるうえでとても大切です。
そして、「協調」

お互いに、協力できる環境をつくること。そのためには、コミュニケーションを絶えずとり、庁舎内での「ホウレンソウ」です。お互いに優しい言葉をかけあい、良い人間言関係を作ることです。「和顔愛語」という言葉がありますが、いつも笑顔で優しい言葉をかけあうことです。

この 3 つの言葉、「論語」を読んでいたら、まさにそのことが書かれていました。
最終章の最後の言葉です。
命を知らざれば、以て君子たること無きなり。
礼を知らざれば、以て立つこと無きなり。
言を知らざれば、以て人を知ること無きなり。
孔子は、仁（思いやり）によって国を治めようとした人です。
多くの人が幸せになるのに、この使命、信頼、協調が大事だと言っていると解釈できます。

最後に、＋（プラス）1の「成長」
企業は人なり。企業は、会社の社長の器以上には大きくならないと言います。まさに、その通りです。
やはり同じく町は、町のトップの器以上に発展しない。そして、そこで働く職員が町を動かしています。要するに、町もまちづくりも、町長や職員の器以上には発展しないということです。町長と職員の両輪にかかっています。
目標に向かってワンチームで取り組む時に、使命、信頼、協調は必須ですが、さらに成長発展して成果を残すには、私を含めて一人ひとりが人間として成長することがさらに必要になってきます。
ワンチームでも一人ひとりが成長しているチームと、成長してないチーム。どちらが強いか。スタートは同じであってもゴールは異なります。
さらに、一人ひとりが日本一の公務員にならなくてもいい。全員が 1 ミリでも成長すれば、300 人の組織だとすれば、300 ミリ、合計すると30センチの前進。1 日1ミリ、100 日で 30000 ミリ 30 メートル。300 日で 90 メートル。1 年で 100 メートルを超えます。
ワンチームで、戦うには、「使命、信頼、協調＋成長」が必要となります。

最後に、「そうは言っても今置かれている労働環境は、そんなに甘くない」と思われるかもしれません。私も皆さんの労働環境を改善し、働くことへの満足度を上げなくてはいけないと認識しています。
残業を余儀なくされている職員、イベント等で毎土日出勤を余儀なくされる職員、家庭の事情、また、今の仕事が自身の適正にあっていないかもしれな

い。あるいは長く同じ仕事をしていてモチベーションがあがらない。さらには、職場の人間関係がうまくいっていない。
様々な要因が、ワンチームになるのを阻害しているかもしれません。
しかし、すべての環境が100％良くなることは難しい。
歴史を振り返っても、また、今日大きな成果を残している実業家、スポーツ選手などは、皆与えられた環境の中でベストを尽くして道を開いてきました。

昨年、SBIホールディングスCEOの北尾吉孝氏の講演を聴きました。
（金融持ち株会社、ソフトバンクの関連企業として設立）
一流の人物は、皆読書家、座右の書を持っていて絶えず学び続けています。
当日、小泉信三さんの「修身教授録」をお持ちになられ、お話をされました。
本が付箋だらけで、いかに読み込んでいるかというのが一目でわかりました。
小泉信三さん明治大正昭和と生きられた教育家です。
その時に、北尾さんは「最善観」について紹介されました。これは「楽天知命」「天命を信ずるが故に、天命を楽しむ」という意味ですが、小泉信三さんは、楽天知命だとあまりにも知られすぎているので、「最善観」という章にされたと言っています。
その部分を紹介します。

自分に起こることは、私にとってすべてが絶対必然であり、最善である。

稲盛和夫氏の人生で成功する方程式
情熱×能力×考え方　を思い出します。まさに何事も前向きに受け取り生きていこうとする姿は、すべての人生の成功者に共通しています。

今年１年間、皆さんがより働きやすく、満足感が高くなるような労働環境を作らなくてはいけないと感じています。
しかし、100％納得できる環境にはならないかもしれません。
そうした中でも、皆さんにはワンチームとなって職務に精励していただきたいと思います。
職員の皆さんが「幸せ」でなかったら、住民の皆さんが幸せになれない。
皆さん一人ひとりが仕事に従事し、少しでも高い満足感をもって幸せに生き自己実現を図れることが重要です。

今年のお正月に、一枚の年賀状が届きました。
そこには、こんなふうに書かれていました。

「どんなことも前向きに楽しさを見つけて進んでいきたいと思います。」

ワンチーム。
そのためには、「使命、信頼、協調＋成長」をキーワードに、そして、一人ひとりが、仕事に楽しさを見つけて 1 年間を町政進展の上にお力をいただきたいと思います。

皆様方の今年1年のご健勝とご多幸をご祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。